

12. ブドウの短梢せん定樹における発芽率向上と 新梢生長を均一にする整枝法

1. 背景とねらい

「ピオーネ」や「安芸クイーン」などの大粒系ブドウは頂部優勢性が強く、発芽揃いが悪い。そのため、一文字広島仕立ての根域制限栽培ブドウでは、定植2年目の主枝上において不発芽の節では芽の確保ができず、棚面の利用率の低下につながり、収量が減少する。また、発芽したとしても、主枝上の発芽の早晚により新梢生長に差が生じる。そこで、主枝上の芽を均一に発芽させるとともに、新梢生長を均一化させる技術を明らかにする。

2. 成果の内容

- 1) 発芽不良は、第1主枝から発生した副梢を第2主枝として利用した対照区の整枝法の場合に発生しやすい。根域制限栽培の一文字整枝法では、苗木より2本の新梢を発生させ主枝とする整枝法（主幹2本区）、または摘心により発生させた2本の副梢を主枝として利用する整枝法（摘心区）で主枝間の生育差がなくなり、展葉に至る芽の割合が向上する。また、棚面にある側芽内の主芽の壊死率は、摘心区と比較して主幹2本区が低い（データ略）。主幹2本区では対照に比べて展葉率が15%以上向上するので、棚面利用率は100%に近づく（図1、表1）。
- 2) 芽かき後に、近接の新梢より新梢長が1.5倍以上ある新梢について、本葉が4~6枚展葉したときに第5節で摘心し、副梢を利用することで125cm以上の強勢な新梢の割合が減少し、75cm以上100cm未満の新梢の割合が増加する。第5節で摘心した場合に、25cm未満の弱勢新梢が最も少ないのは、本葉5枚展葉時に摘心した場合である（表2）。
- 3) 摘心処理による果実品質への影響はない（表2）。
- 4) 新梢の5葉5節摘心による新梢生長の均一化は、樹齢（12年生）の進んだ根域制限栽培「ピオーネ」および露地栽培「ハニービーナス」で有効である（データ略）。

3. 普及上の留意点

- 1) 主幹2本整枝に目傷処理や窒素剤の塗布処理を併用すると、発芽率は更に高まる。
- 2) 早い時期の新梢の摘心では、副梢の再伸長を確保できない場合があるので、副梢の発生を確認後摘心する。

（落葉果樹研究室）

4. 具体的データ

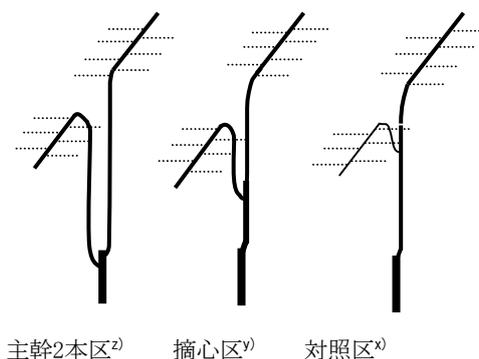


図1 各主枝育成法の模式図

z) 苗木から2本の新梢を発生させ主幹として利用
 y) 摘心で発生した副梢を第1,第2主枝として利用
 x) 第1主枝の副梢を第2主枝として利用

表1 ブドウ「安芸クイーン」における定植1年目の主枝育成法の違いによる翌年の主枝上の発芽率および展葉率

処理区	個体数	第1主枝						第2主枝			
		育苗年 主枝長 (cm)	育苗年 節数	棚面			育苗年 主枝長 (cm)	育苗年 節数	棚面		
				せん定後 節数	発芽率 (%)	展葉率 (%)			せん定後 節数	発芽率 (%)	展葉率 (%)
主幹2本区	3	683.7	82.7	14.0	100.0a ^{z)}	90.5ab	700.0a	77.0a	14.7	97.6a	90.8a
摘心区	4	727.5	80.3	13.8	100.0a	97.9a	713.0a	75.8a	13.5	96.4a	87.3a
対照区	5	775.2	82.8	14.0	82.9b	73.2b	582.2b	66.6b	11.4	82.9b	65.5b
F検定 ^{y)}		n. s.	n. s.	—	**	**	*	*	—	**	**

z) Tukey-Kramer法により異符号間で有意差あり
 y) n. s. は有意差なし, **1%水準で有意差あり, *5%水準で有意差あり
 x) 発芽率および展葉率は角変換により検定

表2 強勢新梢の早期摘心方法の違いがブドウ「安芸クイーン」2年生樹^{z)}の着色開始期の新梢長の分布および果実形質に及ぼす影響

処理区 ^{y)}	新梢の分布率(%)						摘心後の 副梢再伸 長率(%) ^{x)}	果粒重 (g)	糖度 Brix (%)	酸含量 (%酒石酸)	着色 ^{w)}
	125cm 以上	100~ 125cm	75~ 100cm	50~ 75cm	25~ 50cm	25cm 未満					
4葉5節	2.6	51.8	36.9	2.5	2.4	3.7	95.0b ^{y)}	21.0	17.2	0.73	1.9
摘心 5葉5節	3.7	55.9	32.5	3.1	4.2	0.6	100.0a	21.7	17.9	0.74	1.9
6葉5節	1.8	56.4	35.6	3.8	0.6	1.9	100.0a	20.4	17.3	0.74	1.6
対照 無処理	15.0	61.3	17.8	3.3	2.6	0.0	—	21.2	17.2	0.72	1.7
F検定 ^{u)}		—	—	—	—	—	*	n. s.	n. s.	n. s.	—

z) 整枝法は主幹2本整枝
 y) 摘心処理は4/28~5/6にかけ全新梢数の1/4を上限に, それぞれ本葉が4枚, 5枚および6枚展葉時に第5節で摘心
 x) 角変換により検定
 w) 三重カラーチャート指数 (「安芸クイーン」用)
 v) Tukey法により異符号間で有意差あり
 u) n. s. は有意差なし, *5%水準で有意差あり